

「話の仕方を考える」

Ver.1.12

「出来る事、見えている事」

自分が生きて来て
今まで自分が経験してきた
全ては自分を思い出すための
旅だったのかとも言えるの
かもしれません
また、新たなものとも
言えます
新たなものとは
新たな自分を見つける
旅だったのかもしれません

これが生きる全ての上での
伏線であり
伏線とはあらゆる所に
張り巡らせてある
そして、意味のある形を
なすととてもよい

出来る事と、見えている事
感覚が先か、論理が先か
真環徒

出来る事を見えると思うか
見えないと思うかは
感覚と論理で考える
弥勒

「論理感覚、感覚論理」

論理感覚、感覚論理とは、
見えている事の、
論理と感覚、感覚と論理と、
出来る事の、
論理と感覚、感覚と論理で、
言い表せる
論理が先か
感覚が先かというのが
論理感覚と感覚論理

見えている事を言葉で言い表す
音読
見えている事を感覚的に表す
ものまね、くちまね

出来る事を言葉で言い表す
計算
出来る事を感覚的に表す
スポーツ

音読計算 ・ ・ ・ ・ ・ **論理論理**
ものまね計算 ・ ・ ・ ・ **感覚論理**
音読スポーツ ・ ・ ・ ・ **論理感覚**
ものまねスポーツ ・ ・ **感覚感覚**

「ものまね計算（感覚論理）」

統計で言うと、

感覚論理は、ものまねスポーツが難しい

論理感覚は、ものまねスポーツが得意

真環徒は、論理感覚と感覚論理が使えるのです

訓練したからなのですね

集中して早く計算したから正解率が高かった

計算スポーツ

論理感覚

$$5+3+6+7=15 \quad ((5+3+7) \quad (15) + 1+5)$$

一瞬で計算して15、本当の答えは21

ものまね計算

感覚論理

$$5+ \quad 3+7=15$$

$$6=1+5=15$$

分析をあとでするとこうなる

どれでも出来るわけではないが

いくつかのポイントがある

分解式を知っているとできる

真環徒は良くします

あのインチキな計算

それかあこれ、どれでも出来る

ものまね計算だ！

これ初めて知ったw

感覚で数を並べ計算し、あとから論理で計算を

ものまねる

「全てにおいていえる事かもしれない」

分解すると全て言い表される
可能性を秘める、そうすると言葉を
駆使すると言い表せるという事になる
話術のテクニックは
論理感覚、感覚論理
論理論理
感覚感覚にあった
これは訓練で出来るようになるか
検証する価値はありそうだ
つづく…

「話の仕方」

5+3+6+7の話をするとき
答えは21ですけども
 $(5+3+7)(15)+6(1+5)=15$ といって
その話をする
 $5+3+7=15$ で
 $6=1+5=15$ であると
これが、繋がりのある話である
論点はどこにあるかというと
すりかえて話、繋がりある話とする
結局、因子は、15で
 $(5+3+7)(15)+6(1+5)=15$
 $6=1+5=15$
答えは
 $(5+3+7)(15)+1+5=21$
答えは同じなんです
話の内容としては
話の仕方、見方が違うだけで
面白味とかも違いますが
同じ合計の話をしていたわけです
1と5って
15に似ているよねみたいな
これが話の作り方という事です
しかし、結局、1と5と15で21なんですね
話としては15の話であっても
結局答えは21になる事を話せばいいのです
これが親和性
 $5+3+6+7=15$ ($15+1+5=15$)
 $5+3+7+1+5=21$
この計算の親和性は言葉で表せるということです
それが話の仕方です

Asasane's Picture Studio | Asasane デザイン工房

<https://asasane.jp/gallery/>

下田 真澄

Ver.1.0 2025 年 7 月 17 日

